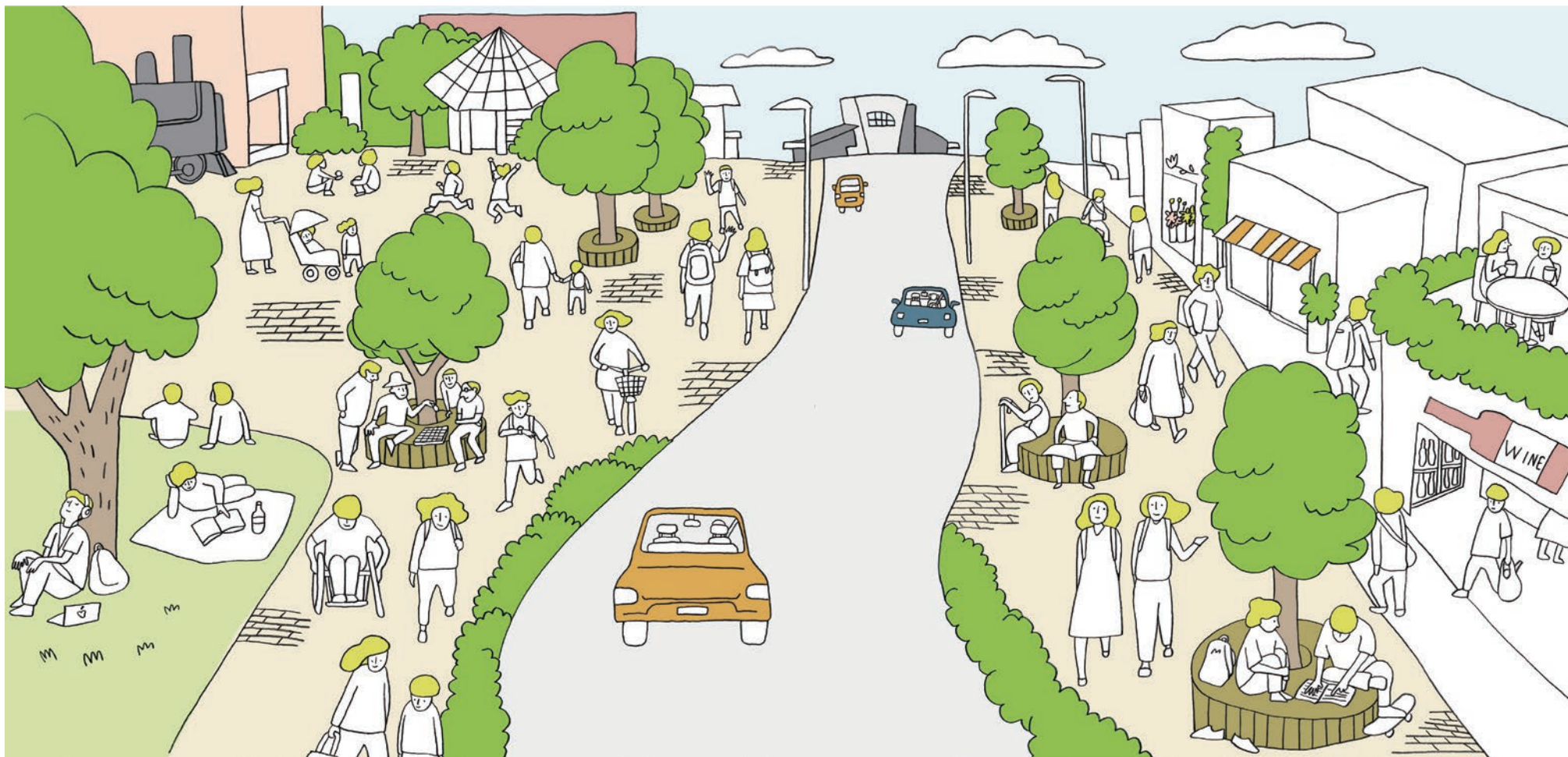


## 07. 未来の姿

### 日常

1 日の中で、ちょっと過ごしたくなる場所がある通りになっています。



散歩の休憩として過ごしたり、子供達は広場で遊び、大人はコーヒーを飲みながら木陰でくつろぐ姿やお仕事帰りに仲間とともに団欒の時間を楽しむ姿などが見られます。隣接店舗や町民が日常的に利用しやすい通りとなり、単なる移動の際に通る道ではなく、日常の中で過ごしたくなる場所に変化していきます。



## イベント活用時

人々の活動が道路ににじみ出すことで、宮代町の魅力が広がり、回遊し寄り道したくなる通りになっています。



広がった歩道を活用した小規模なイベントから、道路全体を使った大規模なイベントが行われます。人々の活動が道路ににじみ出していくことで、より魅力的な宮代町の風景が生まれています。来訪者は駅からその様子が見えることで寄り道に歩きたくなるきっかけが生まれます。

町民にとっては西口周辺エリアが平日も休日も便利で楽しい場所になることで、地元で過ごす時間が増え、商店街の活性につながり、継続的に雇用を生むことが可能となります。大学生にとっても、学生時代に過ごした町に愛着をもち、将来過ごす場所の候補のひとつになります。

## 08. 実現に向けて

これからは、西口周辺エリアの中から整備エリアを絞り込み、地域の皆様とともに引き続きワークショップや社会実験を行いながら、ハード整備の具体的な方向性を検証していきます。

### ワークショップ

町の未来について考える  
町を調査する



### ビジョン

未来の仮説を立てる



### 社会実験

仮説を試す



### まとめ

コンセプト決定



### これから

実現に向けた検証

- .....
- ①ハード整備の具体的な方向性  
→過ごしやすい環境の共有  
→活動しやすい設備の検討
  - ②地域の方と町を育てるために  
→活動しやすい、参加しやすい  
体制や仕組みの検証

これからは、西口周辺エリアの中から整備エリアの絞り込みを行い、実現に向けた5本の柱を念頭に置き、地域の皆様とともに行ってきたワークショップや社会実験の成果を活かし、活性化に向けたソフト事業や、わくわくしながら歩きたくなるまちなかを目指したハード事業を進めて行きます。

### 検討会参加者

安島 美次	手島 互
安部 和花子	中嶋 庸子
伊藤 はるか	中村 和基
大木 了一	中村 幸絵
小椋 圭人	蛭田 秀人
亀山 佳史	蛭田 真由美
川嶋 涼太	古谷 諭史
菊地 純平	松本 大輝
木村 哲也	水谷 麻里子
木村 裕子	森本 幹太
小林 桂子	柳沢 純一
佐々木 誠	湯浅 彩子
穴戸 ゆみ	横川 剛士
高師 啓佑	渡辺 徹

### 社会実験サポートメンバー

菅井 陽斗  
柏倉 桃子  
川岸 野愛  
小暮 大雅  
小山 礼雅  
湯野川 慈恩  
菊地 沙耶

### 調査サポートメンバー

末木 孝一郎  
吉羽 流矢  
西村 昴星  
佐藤 貴希

※順不同、敬称略



